



ずっとボラの会 主催 東北の現状と課題 ～私たちにできること～

大阪の地で、東北の応援をし続けましょう

12月9日 参加36名

復興の現状やこれからの課題について一緒に考えようと、ずっとボラの会主催の報告会が行われました。



佐伯さん



林さん

一緒に応援しませんか

「ずっとボラの会」の活動って？

- ①パルコープの店頭で震災応援グッズ販売を実施（月一回）
- ②地域のまつりやイベントに出店し、震災応援グッズ販売を実施
- ③交流会を開催し、現地の様子や活動や大阪で出来る支援について懇談

まずは会員登録を！

登録方法：zuttovora@yahoo.co.jpに
下記の内容をメール送信ください。

- ①お名前 ②お電話番号 ③FAX有無 ④携帯番号
 - ⑤ご住所 ⑥性別 ⑦連絡方法 1.PCメール 2.携帯メール（メールアドレスも）⑧車の使用の可否
- ※いただいた個人情報は、「ずっとボラの会」の活動以外では使用いたしません

「2013年6月に生まれたずっとボラの会は、翌7月に手探りながらも販売会をスタート。2017年10月には100回を超えることができました。生協の東北応援バスは今年度で終了しましたが、ずっとボラの会の活動を通じて大阪でできる応援を続けたいと思います」と挨拶がありました。

6年間、現地岩手に常駐されているパルコープの林さんを招いて、主にパルコープの組合員さんや職員がボランティア活動をした陸前高田市・大槌町の今の姿を報告いただきました。（以降要旨）

大震災の後、沿岸部どこの地域も「安全な街づくり」ということで高い防潮堤を建設したり、盛り土をして高上げた所に住居をつくるなど復興がすすんでいます。

あるアンケートで復興を感じるのは「住まいが落ち着いた」と答えていました。

「同じ悲しみを二度と繰り返しては欲しくない」という強いメッセージを持つというところ。語り部の釘子さんはボランティアが訪れる度に「あなたの避難所はどこか知っていますか？そこへ行ったことがありますか？十分な備蓄があるか確認しましたか？」と聞かれます。

私たちができることは、このメッセージを、自分ごととして真剣に考えて行動することだと思えます。そして、被災地の事を忘れないことです。

この6年半で被災地から教えてもらったことは「同じ悲しみを二度と繰り返しては欲しくない」という強いメッセージを持つというところ。語り部の釘子さんはボランティアが訪れる度に「あなたの避難所はどこか知っていますか？そこへ行ったことがありますか？十分な備蓄があるか確認しましたか？」と聞かれます。

※2017年9月時点の団地数



NO.96

被災者に寄り添い、絆をつなげる支援活動を

関西3生協の復興応援バスで一番出向いた先が岩手県・陸前高田市です。この街の“奇跡の一本松”から車で10分も行けば宮城県で、自称「岩手の湘南」と言っておられる土地柄です。

震災から6年と10カ月経ったこの街で、私が最も感心した場所が半年前にオープンした“市立図書館”です。高台地にできた商業施設に隣接されたこの図書館は、来館者がすでに7万人で、市の人口の約3倍に及んでいます。それほど待ち望まれた場だと思われ、図書館司書さんに「一番の特徴は？」と尋ねてみますと、「図書を読んだり、借りたりするだけでなく、人が集う憩いの場にしたいです…」と。例えば、児童コーナー傍には“離乳室”や“おやこトイレ”があり、すぐ横の非常口外は芝生の“おにわ”もあります。また東日本大震災に関わる図書が原発事故関連を含め、1,500冊を有していると伺いました。皆さんも岩手に行かれた際には、この図書館に立ち寄ってみたいですね。

もう一つは、個人商店さんが『まちゼミ』という名で、店主やスタッフが講師になって、プロならではのコツや知識、趣味のことを教えてくれる少人数のミニ講座です。第3回目となった12月には、20店舗ほどで開催し“包丁の研ぎ方”や“おしゃれラッピング”、“タイヤの健康診断”などに人気があったとのこと。お店の特色を活かして、これからのまちづくりと生業をつなげて、商店さん同士で復興を進めておられる姿にも感心しました。

（岩手県遠野市に常駐する
パルコープボランティア事務局・林さんより）



ずっとボラの会(東北応援バス参加者の有志の会)よりお知らせ

<今後の販売会の予定> ぜひ、お立ち寄りください。

日程	会場
2月4日(日)10:00~15:00	東中浜店
2月17日(土)10:00~15:00	よどがわ防災まつり
2月25日(日)10:00~15:00	東都島店

店頭で東北グッズ販売と募金活動などを行いました。

- ◎震災復興イベント「東北の現状と課題」(12月9日) 売上げ22,990円と募金2,277円
- ◎忍ヶ丘店(1月7日) 売上げ61,320円と募金666円

ご協力ありがとうございます

東北支援募金の状況(2017年3月21日～2017年12月20日)
20,446,820円 (この金額には2016年度繰越金・注文書での募金・店舗などに設置の募金箱・ずっとボラの会での物販などを含まず)

※OCR注文書では11月2回から、
注文番号を「1420」に変えて受付を続けます

2017年度 第3回 東北スタディ(民泊)研修

11月3日～7日 28名参加

2日目・3日目は各家庭に分かれて活動。家族のかたとともにすっかり打ち解けて、各家庭で賑やかに本当の家族のように盛り上がっていました。

■ 武蔵さん宅(気仙町)

民宿を営んでおられる武蔵さん宅では、朝から海へ出向き漁のお手伝い。立派なたこやほたてを運びました



■ 蒲生さん宅(広田町)

「陸前高田市産業まつり」がたまたま開催されており、参加。午後からは、蒲生さんの畑で収穫をお手伝い



■ 金野さん宅(米崎町)

りんご農家のお家で朝からトラックいっぱいになるまで収穫。おかあさん手作りの伝統おかし「がんつき」もいただきました



■ 村上さん宅(広田町)

塩もみしたタコを大きな釜でゆきました。釜は震災当時ライフラインが止まった時、お風呂を沸かしたりご飯を作るのにと活躍したそう



■ 畠山さん宅(広田町)

家の裏に生い茂る木々などの撤去作業をお手伝い。女性の一人暮らしで「あきらめていたがきれいになって感激です」と話されていました



■ 木村さん宅(広田町)

畑でキャベツやブロッコリーの収穫などをお手伝い。3日目は箱根山へ登頂もしました



■ 佐藤さん宅(矢作町)

ご自宅の庭に散らばったたくさんの落ち葉かき。家族の方と大変仲良くなり、また是非来たいと約束されていました



津波被害のタピック45の震災遺構に入って見ると、テレビや新聞等報道とは異なった空気を感じました。民泊に泊めていただきお手伝いのつもりが逆におもてなしを受けてしまい、心がいやされました。陸前高田がすぐく身近に感じられるようになりまし。残念ですが今回が最後と、言うことで今後はできるだけ東北産の物を買ったり少しでも応援していきたいと思っています。

(枚方市 生田さん)

2月は 生活排水対策推進月間

川などの水の汚れの原因の約8割がトイレや台所、お風呂、洗濯など日常生活から出る「生活排水」です。この生活排水の影響は、河川流量が減少する冬期に大きくなります。

大阪府では2月を「生活排水対策推進月間」とし、ご家庭からの生活排水をできるだけ汚さずに流すための工夫を呼びかけています。

みなさんに心がけてほしいこと!!

- ◆食器や鍋の汚れは、紙などで拭き取ったり、ヘラでかき取ってから洗いましょう。
- ◆味噌汁、スープ、飲み物などは必要な分だけつくり、残り物を流さないようにしましょう。
- ◆油は使い切る工夫をし、捨てる場合は、流しに流さずに新聞紙に吸い込ませたり、固形化するなどしましょう。
- ◆石けん、洗剤、シャンプーなどは適量を使いましょう!

大阪府広報担当副知事
もずやんと家族



下水道や合併浄化槽等を利用していても、これらの取組は、処理施設への負担を減らすためにも有効です。

大阪府環境農林水産部 環境管理室 TEL 06-6210-9585
【大阪府生活排水対策に関するホームページはこちら】

大阪府 生活排水 検索

http://www.pref.osaka.jp/kankyohozen/sei-hai/

「くらしの公開講座」開催

テーマ 子どもの貧困問題を考える

日時 2月5日(月)
10:00~12:00 (受付9:30~)

参加費 無料

場所 パルコープ京橋事務所(本部)3階
※JR・京阪・地下鉄「京橋駅」下車

内容 基調講演
「大阪の子ども貧困の実情は(仮)」
藤永 延代さん
(子どもの貧困問題大阪ネットワーク 副理事長・パルコープ有識理事)

事例発表
①「くずはみんなの子ども食堂」
代表 梅原知子さん
②「にしなり子ども食堂」
代表 川辺康子さん

申込 組合員サービスセンターにお電話ください。
☎ 0120-299-070
(月曜、土曜9:00~17:00
火~金曜9:00~18:00)

※申し込みの締め切りは2月3日(土)までとします